

加藤研究室では、実験に使用するワカメを作出するため、昨年秋から、天然ワカメのフリー配偶体（*注）を用いたワカメの種苗生産を行いました。その際、実験に必要なワカメとは別に種苗生産を行い、昨年11月に、種糸として長さ約60mの種苗を広漁協青年部（呉市）に提供しました。本養殖は、数cmに切った種糸を養殖用ロープ約300mに差込んで行われました。その後、順調に生育して今年2月末には長さ1.5m近くに達しており、3月中旬からの出荷が予定されています。

（*注）ワカメは、メカブで遊走子を作り、この遊走子がオス・メス別の顕微鏡サイズの配偶体に育ちます。配偶体は、精子または卵を作り、これらが受精するとワカメになります。配偶体は、野外では岩石等に付着して育ちますが、フラスコ内に浮いた状態で培養したものを、フリー配偶体と呼びます。フリー配偶体として培養することで、異なる性質のワカメを掛け合わせたり、養殖開始に合わせて種苗生産を調整することができます。



写真：提供した種糸から養殖されたワカメ（2019年2月28日撮影）